

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称
771	林業振興経費	会計	01	一般会計	
基本施策	42	持続的で個性的な農林業を实践する	款	06	農林業費
			項	02	林業費
			目	02	林業振興費
担当部課名	青山支所産業建設課		細目	101	林業振興経費
作成者氏名	山内 敏	連絡先	細々目	01	林業振興経費
		52-3220			

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)					
①緊急間伐対策完了検査。②木材振興対策補助。③間伐材利用促進補助。④森林・林業振興対策補助。⑤緊急間伐対策補助。		森林の間伐促進により、放置森林の減少による森林環境の改善。団体の活動に支援することで、森林に対する理解が深まり、ひいては林業振興に資する。					
本年度事業内容	①緊急間伐推進事業において間伐施業した者に補助金を交付。 ②間伐材等を利用してバス待合所やゴミ集積所等を整備する区等に対し経費の一部を補助。 ③青山木材協同組合、青山森林・林業振興対策協議会に対し、森林・林業振興に関する活動に補助金を交付した。(前者は木材、製材業の団体、後者は林業家を主体とした団体)						
開始年度	平成	年度	終了年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	伊賀市補助金等交付規則ほか

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	0.3	0.2	0.2
	人件費合計(A)	2,160	1,440	1,440
②支出内訳(千円)	事業費(B)	11,026	12,560	13,560
	委託料	1,260	1,260	1,260
	補助金	9,747	11,300	12,300
	その他	19		
合計(A+B)		13,186	14,000	15,000
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金			
	地方債			
	受益者負担 その他特財			
一般財源	13,186	14,000	15,000	
上記①～③に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
緊急間伐申請者数	人	125	150	160			
間伐材等利用施設設置数	箇所	1	2	2			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
間伐申請者数	間伐等の造林作業は繰り返し行なわれるもので、面積を指標とすることはありえない。このため、申請者数の増加はこの制度の浸透度を現すと考えられる	人	125 目標 ()	150	160
間伐材等利用施設設置数	間伐の推進とあわせ、その材の利用を図ることも間伐の促進、ひいては木材振興・林業振興に繋がる。このため、そのPR、普及もかね施設を増やすのも有効である。このため、地域の住民が間伐材等を利用した施設をより多く設置することが指標となる。		1 目標 (2)	2	2

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

旧青山町時代の平成14年度に初めて事業を実施した。当時から予算額を大幅に上回る申請があり、所謂、頭切りつまり最高限度額を抑えざるを得ない状況が続いている。年々申請者数が増加する傾向にあり、予算の伸びが無い状況であるため、最高限度額が毎年下がりに続けている。無関心層への浸透を図るためには、ある程度纏まった金額が必要であり、そのためには予算の増強が必要である。また、木材振興には材を多く使うことが有効で、間伐材を使用した地域の施設が増えることはPR効果も含め有効である。このため、現在青山支所管内に限って実施されている補助を市内全域に拡大する。

評価	必要性	4	当支所管内では全面積の80%は森林であり、そのうち90%が杉、檜の人工林になっている。この森林の殆どが間伐施業を必要としており、木材価格の低迷は当分、続くものとみられることから、林家の自力での間伐は困難。全体的にある程度の森林環境の改善が、確認されるまで事業は継続させる必要がある。	総合評価 A
	有効性	4		
	達成度	4		
	効率性	4		